第Ⅳ期（2024 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）
第８回 国立天文台 TMT 科学諮問委員会 議事概要

■　日時
2026 年 3 月 30 日（月）13:00-16:00

■　オンライン開催

■　議題
1. TMT 進捗報告(青木)
2. 答申に対する議論（吉田、西山）
3. 科学運用 WG 報告（岡本）
4. 広報 WG 報告（小西）
5. 装置開発 WG 報告（小谷）
   来年度 TMT 戦略基礎開発研究経費について
6. ユーザーズミーティング(6/17-19) TMT セッションについて（伊王野、西山）

■　資料
1. 議題 1_20260330 科学諮問委員会 TMT 報告.pdf
2. --
3. 議題 3_20260330TMT-JSAC_SOPGreport.pdf
4. 議題 4_TMT-JSAC_outreach_20250330_v2.pdf
   議題 4_TMT-JSAC_outreach_加筆済 p5 のみ.pdf
5. 議題 5_TMT_senryaku_FY2026_draft.pdf
   議題 5_TMT-SAC 装置開発戦略検討グループ報告_20260330.pdf
6. 議題 6_Subaru_TMT_SAC_20260330.pdf

■　参加者(所属別名前順、敬称略)
TMT 科学諮問委員会委員
〈出席〉秋山、岩室、岡本、小谷、小西、左近、田中、永井、西山、播金、諸隈、吉田
〈欠席〉大井、古澤、本田
国立天文台 TMT プロジェクト
〈出席〉青木、伊王野、臼田、倉崎、安井

■　次回 TMT 科学諮問委員会予定
2026 年 6-7, 8 月に日程調整

＜凡例＞ Q = Question, A= Answer, C = Comment
＜発言者＞長 = 委員長, 委 = 委員会メンバー,
プ = プロジェクトメンバー, 戦 = 戦略経費審査委員, 広 = 科学広報グループメンバー
科 = 科学運用検討グループメンバー, 装 = 装置開発グループメンバー

1. **TMT 進捗報告（青木）**

TMT の状況: NSF 関連

- 前回 TMT 科学諮問委員会以降で最も大きな動きは NSF 関連。昨年 5 月の NSF 予算協議で TMT を最終設計段階に進めないと記載されたことに対して、TMT 国際天文台 TIO と国立天文台は予算作成権限を持つ米国連邦議会関係者等への働きかけを続けてきた。
- 今年 1 月 23 日、連邦議会が NSF は TMT と GMT プロジェクトを直ちに最終設計段階へ進めなければならないという、非常に強い文言が入った合同声明書を伴った歳出法を可決した。大統領が署名し、歳出法として成立した。これによって、予算協議での記載は上書きされた。今後はこの線で進むことになる。
- 合同声明は NSF に対し、この歳出法が有効になってから 45 日以内に議会に今後の方針や実施状況を報告するよう求めている。NSF は法に基づいてプロセスを進める立場を示しており、GMT に続き TMT も最終設計段階へ進むと見込んでいる。
- 合同声明書の文言や予算対応については資料を参照。2026 年度は建設予算要求の年ではなく、GMT・TMT 両プロジェクトとも独自予算で対応可能としているため、予算割当はしないと記載。
- 一方で Astro 2020 で推奨された施設開発のために 3000 万 USD 以上措置する、という文言もある。TMT はこれまで NSF から設計開発費を受けてきており、この予算を得る可能性もある。
- NSF 全体の年間予算はこれまで約 90 億 USD だったが、予算教書では約 39 億 USD への削減が示された。歳出法では 87.5 億 USD まで押し戻した状況。

TMT の状況: ハワイ関連

- ハワイでは状況が改善しており、ハワイ郡長はじめ地元での信頼構築が進んできた。
- 地元コミュニティとの対話の中で複数意見があった、マウナケアでの建設地を新規開発地ではなく、望遠鏡撤去跡地へ変更する可能性を検討中。そのために必要な手続きについてハワイ関係者が検討しており、州知事やハワイ大学も前向き。
- マウナケア管理の MKSOA への移行が 2023 年にスタートして以降、手続きに時間がかかり天文学特に TMT に関する議論が本格化しない状況だったが、昨年 9 月の MKSOA 月例理事会に Liu プロジェクトマネージャーが招待され TMT について直接報告した。その中で TMT 建設地を撤去跡地に変更する可能性も説明して必要な手続きや期間を問いかけた。ハワイ州知事から検討の返答あり、11 月 MKSOA 理事会で公聴会が開催され、反対意見が多数出されたが、2016 年や 2019 年と比べると規模は小さく、賛成意見も出てきている。場外デモもなく、反対の声も小さくなってきている。
- MKSOA はマウナケア管理計画を策定中。1 月から 2 月にかけてハワイ州 5 島でコミュニティ会合を開催し、約 1500 人参加。天文学賛成・反対双方が混在するグループでワークショップスタイルで話し合い、冷静に議論が行われている。ヒロでも開催され、国立天文台関係者も参加した。
- 全体として、MKSOA でマウナケアでの天文学や TMT について正面から議論されるようになってきているのが、この半年の大きな動きといえる。

ラパルマでの計画に関するスペイン提案の検討

- スペインから昨年 7 月にラパルマ誘致の提案が出されている。内容はスペイン科学省の産業技術開発センター(CDTI)が資金を出し、足りない部分はヨーロッパ投資銀行(EIB)から借り入れる形で進めるというもの。
- TIO では毎週または隔週で会合を持ち、評議員会と執行部が協力して検討してきた。
- 1 月には、TIO は CDTI とカナリア天体物理研究所（IAC）および EIB とも直接会合を行った。
- スペイン関係者代表団が 3 月 16、17 日に日本を訪問し、自然科学研究機構などで計画の内容説明と意見交換を実施。
- 国立天文台の立場は、ハワイ建設が不可能となり、かつラパルマで建設・運用予算の見通しが十分に立つ場合は、ラパルマへの変更も検討するという立場。建設地変更の場合はコミュニティへの十分な説明と議論が必要と対外的にも説明している。
- スペインが積極的な提案をしている一方で、長期的な資金計画や運用、メンバーの観測時間配分見通し等、明確になっていない点を明確化する必要がある。
- 国内コミュニティ合意や政府承認を得る必要があり、そのプロセスが提案されているタイムラインとは整合していない。日本だけでなくカナダやインドでも同様で、政府承認には時間がかかる。
- ハワイや NSF の参加についても前向きな動きがあり、現時点でハワイ建設の選択肢を外すことは考えていない。スペインからの説明を受け、現状を整理している。

観測装置 IRIS の第一回最終設計審査会が完了

- 2025 年 12 月に、IRIS の第 1 回最終設計審査会が開催された。IRIS は 2021 年に一度審査を受けているが、整理としては今回が第 1 回の最終設計審査会という扱いになった。IRIS 全体としては今後、最終設計審査会第 2 回を実施する予定。
- 日本が担当している撮像分の主なところについては、工学系と機械系で最終設計審査を今回受けて合格し、製造段階への準備が整ってきた。
- TMT プロジェクトの鈴木氏をはじめとする関係者、ATC の技術者が評価やプレゼンテーションなどで活躍した。

ロードマップ 2026

- 文部科学省のロードマップ 2026 に申請予定である。2023 年のロードマップに TMT が掲載されてから 3 年経過し、改めて申請が必要となる。締め切りは 4 月 23 日で、2023 年時よりスケジュールが早くなっている。計画の基本内容は変えず、この間のアップデート、NSF やハワイの状況、代替建設地のスペイン提案も含めた提案を申請予定である。

質疑応答・コメント

Q 委）MKSOA で開催された公聴会で出された反対意見というのは、建設そのものへの反対なのか、望遠鏡撤去跡地への変更への反対なのか具体的に教えてほしい
A プ）多くの意見は、建設地の変更というより TMT へのこれまでの批判が繰り返されたもの。

Q 委）ラパルマ建設の場合、スペインの観測と TIO の観測ではどちらが優先順位が高くなるのか。
A プ）スペインの提案ではスペインの時間は販売する形になる。合意書で何パーセントがスペイン、何パーセントが TIO の時間かを分けることがベースになる。そうでないと TIO 側として受け入れにくい。

Q 委）スペインの時間を日本が買うことは可能か。
A プ）原理的には可能で、売り先はヨーロッパだけに限定しない。

Q 委）例えばベテルギウスが爆発したときに複数の提案があった場合どうなるのか。
A プ）ラパルマかハワイかに関わらず、複数のパートナーが持ち時間を持っており、同じ提案が出る可能性がある。重複提案を認めるかどうかはオペレーションプランの課題となっている。観測時間の販売になると調整が効かなくなる面がある。

Q 委）科学運用について検討し直しになることはあるか。
A プ）検討し直しになる部分も出てくると思う。ただ TIO の持ち時間とスペインが販売する部分を切り分ければ、現行のオペレーションプランは成立する。
C プ）基本的にオペレーションプランがマウナケアとラパルマで大きく変わることはなく、例えばマウナケアでは NSF が約 40%、ラパルマではスペインが約 30～40%の時間を持つことになる。スケジュールの組み方は基本的に同じ。
重複プログラムを認めるのが現行のオペレーションプランで、シングル TAC の方が良いという意見もあったが、現行プランでは重複提案を認めている。スペインから出る提案、日本から出る提案の扱いはスケジュール上の課題となる。

Q 委）スペインの建設許可が 9 月までとなっているが、建設許可が延長される可能性や、それにかかる時間、次のタイムラインについて知りたい。
A プ）建設許可の延長措置はなく、再度申請し直す必要がり、そのための時間もコストもかかる。9 月に着工しなかった場合のタイムラインは今のところ議論されておらず、次のタイムラインは出ていない。

Q 委）9 月までの着工は難しく、再度建設許可を申請するという認識で良いか。
A プ）スペインから資金提供がなければラパルマでの TMT は成り立たない。建設許可を 9 月以降に延期する場合は再申請が必要で、それには少なくとも 1 年は必要。再度建設許可を取得することに対してスペイン側が興味を示さなければ資金プランが成り立たなくなる。再申請の場合に追加資金をどこが負担するかが問題になる。

Q 委）ロードマップについて、2026 年に掲載できるかどうかの難点はあるか、出せば掲載できる見通しか。
A プ）計画の中身は 2023 年に認められているが、その後前向きな動きをきちんと示すことが非常に重要。NSF の進展やハワイの状況改善も重視している。もっと踏み込んで建設できる見通しを示す材料を出していきたい。4 月が締め切りだが、7～8 月に審査・ヒアリングがあるので、それまでに動きを作っていく必要がある。

Q 委）申請段階でスペイン建設という選択肢もあり得るということは以前から書いてきたか。
A プ）2023 年のバックアッププランとしてスペイン・ラパルマ島を挙げ、期待できる科学的成果は基本的に確保できると記載している。今回も新たな動きを追記する。

2. 答申に対する議論（吉田）

i）答申作成スケジュールと進め方の確認

- 今期 TMT 科学諮問委員会が開始して 1 年半が経過し、台長への答申をまとめる時期になった。内容はまだだが、スケジュールのみ決める必要がある。今期メンバーの任期は 8 月末までなので、それまでに答申を完成させる。
- 今後 TMT 科学諮問委員会を 2 回程度開催できるはず。全体で議論し答申を決めるが、案はワーキンググループから出してほしい。
- 1 回目はすばる UM 後の時期に開催し答申案作成に向けて議論する。その際、各ワーキンググループから答申の叩き台を出してもらい議論する。2 回目はほぼ完成した段階で 8 月頃に開催し全体の確認を行い、引き継ぎ事項のリストアップもしたい。このスケジュールでよいか。
- 今期科学諮問委員会では、対面で集まったことがないため、どちらか 1 回は対面で開催したいと思うが意見を聞きたい。この方法で進めていく。
- 集まる場所も考慮する必要がある。三鷹が候補だが他の大学もあり得る。受け入れ可能な大学があれば教えてほしい。
- スケジュールとしては、すばる UM で科学アンケートを行い、議論する予定。すばる UM は 6 月 17～19 日、これを受けて 6 月末か 7 月初めに委員会を開催し、その段階で答申の文章がある程度できていてほしい。 今後 3 ヶ月でワーキンググループごとに文章を作成し、最終確認は 8 月半ばか後半に皆で行う。

ii）委員会全体で扱うべき項目：

第二期装置のロードマップ改訂について

- 答申の中で第二期装置のロードマップ改訂について、装置開発ワーキンググループからサイエンスブックの進捗情報が必要との要望があった。2020 年作成のサイエンスブックを見直し、田中氏が取りまとめて Google ドックなどに置いてくれた。加えて北半球に巨大望遠鏡が必要だというホワイトペーパーの情報ももらった。
- 今期 TMT 科学諮問委員会では新サイエンスブックの改訂は行わない。プロジェクトで今すぐ新しいサイエンスブックが必要という状況ではないため、これまでの議論は次期 TMT 科学諮問委員会に引き継ぎ、改訂は今期では行わない。
- 装置開発ワーキンググループはまとめたサイエンス進展を盛り込みつつ第 2 期観測装置のロードマップ改訂や新規装置の検討を行い、それを答申に盛り込む。

その他の項目について

- 諮問事項の中に、TIO-SAC の諮問事項に対してユーザーの意見を反映させるかという内容があったが、今のところ TIO-SAC の審議や議論があまり進んでいないので、それについては新たに言及できないと考えている。
- 昨年 7 月に開かれた TMT-ACCESS で提案された装置開発や装置を TIO の検討に上げる道筋を考える必要がある。これについては、吉田委員長と西山副委員長で検討し、原案を考えることとする。
- スケジュールとしては、答申は 8 月末までに完成させる必要がある。次回 TMT 科学諮問委員会では、原案を持参する。原案は各ワーキンググループで話し合い、6 月末か 7 月初めの次回 TMT 科学諮問委員会までに持参すること。原案作成で話し合いたいことがあれば、メールリストなどで連絡してほしい。

3. 科学運用 WG 報告（岡本）

- 前回の TMT 科学諮問委員会からミーティングを２回開催し、5 つの国内検討課題について担当のメモをもとに議論を進めてきた。合意形成できたことは答申案に盛り込む。個別の意見もメモで取りまとめている。ワーキンググループとしての

答申案をスケジュール通りに用意していく。諮問事項の答申は台長の諮問への答申となるので、別に TMT プロジェクトや次期 SAC へ向けたまとめも考えている。

- ユーザーアンケートを 6 月のすばる UM 前に実施したい。アンケート内容を WG 内で検討しており、この場でも相談したい。アンケート結果はすばる UM セッションで報告し答申案にも盛り込む。アンケートは、すばるユーザーメイリングリストの PI 経験者や、TMT に興味のある方を対象としたい。ウェビナー参加者にも送るなど、良い方法があれば教えてほしい。前提条件として、ハワイかカナリア諸島に TMT ができる場合、1 セメスターで何夜ぐらい日本時間が使えるか、数字で示したい。第 1 期、第 2 期で利用可能な装置の情報もリンクなどで示す。TMT 公募では NPP を利用なども示した上で、主に４つを聞きたい：日本時間とすばる共同利用連携への需要、ジョイント課題の必要性、合同 SAC 審査への意見、NPP 利用への意見。
- TMT 大型プログラムの需要・規模・開始時期や、時間確保の方法（日本単独枠か各国持ち寄りか)、意見収集もしたい。日本時間のユーザーサポートへのニーズ（各種講習、リモート観測、日本語サポート、研究助成、論文出版費、ポスドク雇用、学生 PI 支援等）も聞きたい。観測データの国内アーカイブについても需要を把握したい。他に聞いておくべきことや、アンケートの主体・時期（5 月中を想定)、まとめ方など意見や質問があれば教えてほしい。

質疑応答・コメント

C 委）アンケート内容や実施に関して、すばる SAC には事前相談すべき。すばる共同利用連携部分も事前に意見を聞きたい。すばる SAC のスケジュールに合わせて 4 月 24 日に確認後、5 月にアンケート実施で進める。(西山)
A 科）それで問題ない。アンケート内容も固めておく。
C 長）アンケート項目は既に文字化してあり、選択肢や自由記述で調整中。内容がまとまればメール等で全体回覧する。細かすぎると答えづらいので、大体網羅した内容で作成し、みんなで確認する。
C 科）Google や Microsoft 等ツールでアンケートページを作成したいので、TMT プロジェクトに作業を依頼したい。
C 委）スペインへの建設地変更の可能性についてもアンケートに入れるかは、状況次第。大きな話なのでセットでやるより別途が良い。TMT 観測開始と ELT との運用や連携も意識し、枠組みにとらわれず幅広く意見収集したい。大型プログラムの扱いは開始時点から比重をどの程度にするか議論が必要。ジョイント課題も幅広く聞ける形に。
C 科）他望遠鏡とのジョイント課題など、自由記述で意見を集めるようにしたい。
C 長）順番や質問項目は要調整。岡本さんと WG に文案作成を依頼、その後、委員会全体で確認を進める。

4. 広報 WG 報告（小西）

- 3 月 10 日に TMT ウェビナー第 3 回を開催。今回から他波長の講演者を依頼、装置シリーズを開始。アンケートでは満足度高く、今後聞きたいテーマは TMT や装置の状況が多い。 過去 3 回とも参加者数は 50 名程度で安定。満足度も高い。
- 今後もウェビナーを継続し、第 4 回開催を検討。任期中に 1 回開催を目標。講演枠は装置の話 1 枠、サイエンス枠 1 枠（super massive black hole 関連を想定、講演者募集中)。候補者については推薦や ISDT から選定。開催形式については、もし対面開催できるなら現地セミナーを配信するハイブリッド形式も検討。若手や学生、他波長の人の参加増を期待。(小西)

- 広報 WG 全体の取り組みとして、ウェビナーを継続、装置開発ワークショップは調整不足のため見送り、今後セミナーなどで様子を見る。広報は TMT プロジェクト内活動で十分との意見もある一方、物理学会や惑星科学会にも広報の必要性はあると考える。

質疑応答・コメント

Q 長）第 4 回の進行と講演者候補について意見を募集したい。
A 広）銀河関連の候補者は ISDT や推薦による。X 線関連も候補。
A 委）松岡さん（愛媛大）や長尾さんも候補。SMBH 関連では西山さんも候補か。
A 委）尾上さん、市川さんは遠方ブラックホールに良い。日本語で話せる人が良い。
C 長） 東北大が現地開催を受け入れてくださるなら日程調整、東北大で対面開催のウェビナーを 6 月～8 月で検討したい。
C 広） 東北大の SMBH 関連は市川さん。
C 委） 東北大学側としては、6 月-8 月のいずれかで現地で開催可能なので、調整して実施したい。

5. 装置開発 WG 報告（小谷）

- TMT 戦略基礎開発経費の今後のあり方について議論。持続可能な経費設計、基礎開発継続性、若手人材減少への対応などを検討している。
- 本経費の現状と今後のあり方についてコミュニティへアンケートを行い（gopira, tennet, 代表者、戦略経費採択者を対象）、10 月 8 日～23 日に 44 件の回答を得た。アンケート結果はすばる UM で報告済み。議論とアンケート結果を踏まえて公募要項改定を進めている。詳細は省略するが、募集要項の求める研究計画について重要点を説明。
- アンケート結果では、3 割強の人が TMT に直接関係しなくても、将来的に TMT に資する広い範囲の研究も認めてほしいと答えた。TMT 関連装置開発、TMT 以外の装置開発、それ以外の人で分けると、TMT から離れるほど「広く認めてほしい」という意見が多くなっていた。
- 経費を今後も続けるべきかについては、「続けるべきだが間口を広げ、より多くが応募できるように」という回答が最多だった。一方で「TMT 目的に限定しない基礎開発経費としてゼロから再検討すべき」という意見もあった。グループ分けでも「間口を広げるべき」が最も多く、特に TMT 装置開発担当グループでは「TMT に限定しない経費とすべき」という意見が目立った。
- 結論としては、今後も制度を続けるなら間口を広げて若手の参入を促すなどの工夫が重要と分かった。また、TMT に限らず基礎開発経費として他研究費との統合や再考も案として多かった。装置開発 WG で議論した結果、TMT に全く関係ない案件を今の経費で支援するのは違和感があるという結論になった。
- 「戦略基礎開発経費」という名称なら TMT 装置の競争的開発に絞るべきとか、また具体的な開発案募集などアイデア重視の募集方針もアンケートにあった。若手参入の機会を設ける形で公募要項の改定を進めている。
- ・ 間口を広げる方針として、求める計画や評価基準の文言を見直し、公募しやすくする。これまで「性能仕様達成見込み」など厳しい文から余計な部分を削り、

ハード中心に読める箇所はデータ解析やソフトウェア開発も同程度に記述を修正する。

- 若手参入対策としては、若手限定枠や若手・学生向け研究費の創設などが考えられるが、まずは学生応募の明記、若手優先考慮などを募集要項に盛り込むことが考えられる。ただし大学院生のみの応募は難しいため、教官連名応募とする方向。
- 募集要項冒頭に「観測装置の実現にハードウェアだけでなく TMT の科学観測推進につながる基礎開発研究」とし、若手研究者による研究を歓迎して積極評価と明記。仕様達成見込みなど不要な部分は削除し、データ解析やソフトウェアも同等に取り扱う。審査基準にも若手応募に積極的評価や、各開発領域の平等性を記載。ドラフトは資料置き場にあり、意見を募っている。

質疑応答・コメント

Q 委）ハードウェア偏重の問題点は何か。実際開発経費は科研費獲得の足掛かりとして重要で、なぜハード偏重が問題視されるのか。
A 戦） ソフトウェアもハードウェアと同等に重要と考えており、申請者から「ハードだけか」と問われるので、ソフトウェアも対象であることをもっと強調したい。
C 委）ハード開発は金額がかさみ、審査でもハードだけでなくソフトでも経費が要ると感じた。だが、ソフト用途は媒体購入などで有効性が見えづらい時もある。現実には両方重要だが、配分額を工夫しないと一律分配ではどちらも不足しがちで開発が進まない印象。ソフト・ハードそれぞれで金額や件数の規模をあらかじめ違える案も検討したい。
C 戦）ソフトウェア開発はハードディスクや PC 購入みたいな申請になりがちで、計画が曖昧なケースもあるが、審査側の意識改革も必要。用途枠を決めるのも一案。
C 委）前回募集時にも「ソフトも対象に」と議論され、実際ソフトウェア関連の公募も採択された。今後も間口を広げる意味でソフトウェア明記は必要。
C 委） 間口拡大で配分額が減り、本当に重要な開発が実施困難になるリスクもある。統計的に多様な分布の応募を集めるなら良いが、平等性・公平性を損なう恐れあり。あまり急ぎすぎず、最終的に間口が広がればよいと考える。単なる金額微減では意義ある課題が出なくなる点も注意が必要。
C 戦）間口拡大と重点投資は相反し、調整が難しい。理解した。
C 長）重点投資をするには現状の予算がそもそも不足では。」
C 委） 総額 500 万円では、個々の開発が十分な金額を得られないし、分割配分でもどちらも意義を定めづらい。権限団体からの予算増額などに働きかけたい。
C 戦）TMT J-SAC として経費増額提言があれば予算獲得も動きやすくなるかもしれない。
C 委） 500 万円を 5 件で割れば 1 件あたり 100 万円。ハードウェア開発には不十分であり、量の獲得や応募件数は先細りになりかねないので強い増額要望を挙げた方が良い。
Q 長）答申中で予算回復要求を明記してはどうか？
A 戦）低額の現状を逆手に取れば、多分野に少額配分し萌芽的テーマに使う今の方針との相性は悪くないとも感じる。
C 委）500 万円で何年も継続できるか分からないが、例えば大規模案件と小規模案件を年ごとに分ける案もある。（左近）
C 戦）何年かに一度は重点投資し、その他は小規模支援でも良いかもしれない。（小谷）
C 長）新しい配分方式を考える場合は募集要項の書き方も議論が必要になる。
C 委）審査段階で重点的に判断する方式も含めて、できることは様々あるので、不合理な萎縮が起きない工夫も必要。
C 長） 募集要項のタイムライン確認。1、2 週間以内の募集開始が望ましい。
C 戦） 現行で大きな問題はなく、審査側でのケアで対応は可能。

C 委）現在の案で進めても良いし、審査前の意識共有で柔軟対応できる。
C 委）採択額が少ないことで意欲的な案件が出ないことが課題だが、現状では問題ない。
C 委）過去の採択実績も参考にしつつ、意識の変化を促していけば徐々に改善される。
C 委）TMT 戦略経費について、これほどの要望があるのに全体予算が 500 万円であることについて、今の状況が非現実的である旨をどこかでアピールし、応募を促したい。
C 長）募集要項配布時に前書きなどで意思表示を加えると良い。
C 長）答申中には、第 2 期装置のロードマップ改定についても加えておく。
　戦略経費の募集開始は 4 月 6 日を目指す。
C 戦）JWST の進展を受けてすばる望遠鏡などと連携した装置開発戦略とロードマップ改定の検討を進める。TMT サイエンスブックの内容を見直し、必要なら装置開発戦略として取りまとめる予定。

6. ユーザーズミーティング(6/17-19) TMT セッションについて（伊王野、西山）

- 今年度のすばる UM は 6 月 17～19 日に開催予定。TMT セッションは例年通り 90 分で行う。科学運用については事前アンケートや内容を合同 SAC で確認してもらう。今年度はすばる SAC が 4 月 24 日と 5 月 27 日にあり、アンケートのタイミングを考えると 4 月 24 に合同 SAC 開催を希望。合同 SAC の参加者や時間帯はプロジェクト側で調査をお願いしたい。議題は UM の TMT セッションの内容を決めること。
- 2026 年すばる UM の TMT セッション案を出してみた。前回アンケートでは英語開催の要望があり、今回は英語とする。例年通りイントロ、サイエンス講演、プログレスレポート、科学運用、戦略経費の説明など。戦略経費の説明は短め、科学運用アンケートの紹介と議論の時間を長く取る予定。サイエンス講演は今回若手や過去にない分野で候補を挙げてほしい。

- 5 名ほど候補を挙げてもらえたので、このメンバーをもとに吉田委員長や伊王野氏らと相談して進めていく。UM のセッションは例年通りの流れで進める。合同 SAC は 4 月 24 日開催予定。TMT 進捗は青木さん、TMT セッションプログラム案を西山が報告。岡本さんか WG の方に科学分野アンケート報告、すばるからサイエンスブックやすばる 3 検討状況を共有。TMT も含めた今後のサイエンスブックはすばる 3 の進捗を見ながら情報共有。案や意見があれば教えてほしい。時間調整は後でプロジェクト側で調整の予定。岡本さんと WG はアンケート内容をまとめて、すばる SAC で説明・議論できるよう準備をお願いしたい。

以上。